

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

## 審査員特別賞

舞鶴よ もどってきたぞ ここからは 己の道を 歩くんだ 自由なら

岩手県盛岡市 すがこう様 三十一歳

## 理事長特別賞

水平線は ピンと張り 位置の確かさ 絵になりて スタートラインは  
舞鶴に 希望を抱いて 生きなおす

宮城県気仙沼郡 つくよね様 六十歳

## 引揚のまち舞鶴賞

見えた見えたと舞鶴に 夫よ息子よ 嘘も涙も かれ果てて  
彼は静かに 命つなげる 緋の港

岐阜県岐阜市 佐き虫太郎様 五十八歳

## 強く生きる力賞

母の大地に辿り着く 令あつての帰還船  
あの日があつて今日があり 今日という日に明日がある

群馬県前橋市 ユトリ呂様 六十三歳

たくさんのご応募ありがとうございました。

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

渡り鳥すら 忘れず 帰らぬ人を 待ち受け 黄昏色に 桃まりゆく 引き上げ船の 着く港

千葉県柏市 渡会雅様 六十一歳

五老岳よ 見渡せば 過ぎし日々を 思いだす 渡も夢も 受け入れる 母なる町よ 舞鶴は

埼玉県熊谷市 城口 あきら様 三十六歳

鶴舞い降りる この街に 死影の地から のぞみもち 大地踏みしめ 降り立つた  
今かがやく 人々よ

新潟県長岡市 ヒメネス様 六十一歳

心の舞鶴は 夢と希望に満ちたまち あの日祖國の土を踏み 生きる力をくれたまち  
心のふるさと 私の舞鶴

千葉県市川市 酒井良Q様 五十九歳

敗戦国の 悲しさよ 抑留され シベリアに 黒パンだけで 死ぬ目遣い 帰国できただよ  
舞鶴に

福井県大飯郡 渡辺 俊菜様 六十一歳

船が来る 夢にまで見た 夢覚めて 声出して 泣いてる私 何度泣いたか 夢見たか  
舞鶴に  
船が来る

京都府京都市山下 清子様 四十八歳

遠い日の 記憶の中で 薫る 思い出の日々 淡色の海 もう一度 この海に来て 夢を見る

京都府向日市 城 琴音様 五十四歳

五老より 見渡せば あの日の夢を 思い出す 舞鶴よ 美しくれ その名の通り 大空を舞え

埼玉県熊谷市 城口 あきら様 三十六歳

たくさんのご応募ありがとうございました。

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

援護局支えた民の心根は 時は移れど今ここに 帰郷を望むわが身にも 安らぎとして  
降り注ぐ

京都府舞鶴市 朴念仁様 六十一歳

終戦で 道を失くした 人々が 再起を誓う 母なるこの地 歳年も 平和を願う 舞鶴は

京都府舞鶴市 朴念仁様 六十一歳

かもめ ゆきかう 情のまち 赤いレンガの港まち 空をみあげて 愛し人 夢をとどけて  
愛し人

兵庫県丹波市 ぶん様 四十四歳

戦いつかれ 逃げまどう シベリアの地で 極寒に ふたたび生きる 希望もち  
引き揚げのまち 舞鶴で

山口県宇部市 シーサイド様 五十八歳

ふるさとは ここよりはるか 遠くでも 我が日本の 大地に 一歩をしるす よろこび深く

福井県坂井市 アルジャナンチエル様 五十九歳

戦争の苦傷ばす岸壁にたたずむ者は今はなし リアスの海よ永遠に安らかであれ

大阪府摂津市 みちくさくう太 五十六歳

叔父さんは この舞鶴に 帰つてきた 六十六万の人 待てども 帰らざる人を 墓れ泥む  
湾の波濤 立ち尽くす 波の音悲し

滋賀県彦根市 森川 暢様 六十四歳

舞鶴港 日本海 激しい波の 港から シベリア向けて 出港し 帰郷し 京の一城の  
穂やかな 港で暮らし この町愛で われらは生きる

東京都板橋区 ウエノ様 二十八歳

たくさんのご応募ありがとうございました。

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

舞鶴ありがとうございました 遺骨奉き 墓を抱いて 佐きし母 南の島に 故りし兄 平和の一步  
舞鶴よ 祈りてうたう 「岸壁の母」

千葉県茂原市 河野 ひさ江様 八十三歳

息子のいのち 笑顔のす しあわせ船を ましました 舞鶴みなど この心  
墓場みなどに しないでと

ノブチカ様 四十六歳

ふるきどの友 どこだろう ふるきどの母 どこだろう ふるきどの空 どこだろう  
ふるきと舞鶴 夢ん中

青森県弘前市 雪りんご様 四十六歳

見えてきました 日本が 見えてきました 舞鶴が 見えてきました 母の手が  
見えてきました 我が未來

鹿児島県姶良市 ミントババ様 四十六歳

舞鶴よ もどつてきたぞ ここからは 己の道を 歩くんだ 自由なら

岩手県盛岡市 十がこう様 三十一歳

故郷の土を踏みました 舞鶴の波戸泣きました 幸せの意味知りました 平和の鶴を祈りました

大阪府大阪市 がんば郎様 五十八歳

戦の果てに 囚われし 酷寒の地で 故郷の 光あふる 佐町 鶴舞う里に 降りる夢

京都府木津川市 ハセドン様 六十三歳

帰つてきました お帰りなさい 何万もの言の景が 緑返された桜橋で  
絶望と飢餓と恐怖と 振り払い 明日を見た 舞鶴で

京都府舞鶴市 朴念仁様 六十一歳

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

敗戦ゆえに 捕らわれて 遠行されて シベリアに 森の伐採 極寒に やつと舞鶴 目に涙

福井県大飯郡 渡辺 俊景様 六十一歳

あさぼらけ 青葉山 白飯と肉じゃが 家族の団欒で 食べれる喜びに 今掌する私

福岡県小郡市 あらといまり様 二十九歳

母の大地に辿り着く 今あつての帰還船 あの日があつて今日があり  
今日という日に明日がある

群馬県前橋市 ユトリ呂様 六十三歳

粉雪舞い散る 舞鶴の 岸壁の波 猛しくも 今運りこん 我が祖国 しかとふくらむ  
明日の夢

大阪府箕面市 銀功様 七十四歳

絶望の中にも光 消さぬよう 鶴舞う故郷 母想う 朋友と 波しながら 夢語らん

福岡県福岡市 いながわ たかひで様 四十一歳

シベリア帰り ふる里の 船が今らぶよ 舞鶴のみんな帰るよ 僕まち 蟹も手招き 鉄振れ

愛知県一宮市 ゆ太郎様 五十一歳

故郷(ふるさと)の 土地を踏まんと 年鶴に 一步をしるし 希望を胸に 私たち  
再び生きる

福井県坂井市 アルジヤンチエル様 五十九歳

多く語らぬ 赤煉瓦 時を隔てて 破頭 遠ざかる空 夢破れ 舞鶴はなお 見つめてる

三重県津市 水栗城様 四十九歳

たくさんのご応募ありがとうございました。

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

敗戦のつけ 捕虜の身 極寒の果て シベリアに 重労働 空腹で 生きて舞鶴 たどり着く

福井県大飯郡 渡辺 優菜様 六十一歳

見えてきたぞと喚く声 船錨埋める顔の列 岸壁埋める顔の山 希望に満ちた日を迎える  
分かつ海さえ声で語る

静岡県静岡市 萩 春樹様 三十一歳

多くの引揚者を やさしく迎えた街 それは舞鶴 戰争、終戦を知らない 私も行つてみたい街  
そこは舞鶴

大阪府吹田市 おとみさん様 六十三歳

海越えて吹く 虎落笛 戦士の叫び 今もなお 祖國を目指す 御魂(みたま) 舞う  
舞鶴のまち 今日も待つ

神奈川県横浜市 ムク坊様 七十三歳

見えた見えたと舞鶴に 夫よ息子よ 哪も波も かれ果てて 波は静かに 令つなげる  
絆の港

岐阜県岐阜市 佐き虫太郎様 五十八歳

どれ程に 待てばよいのか 我が家族 鳴に訊けど 佐くばかり 今も聞える 潤騒に  
ときは忘れず

岐阜県岐阜市 佐き虫太郎様 五十八歳

つま先立つて 君を待つ 秋の落ち葉を しのばせて 金剛院は 星の海 携帯よりも 輝いて

広島県吳市 木塚 康成様 五十六歳

あなたを待った日常を 忘れることは無いだろう 舞鶴の地を踏み締めた あなたの姿  
よろこびを

静岡県富士市 水雨水樹様 二十八歳

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

灰と白 北の国から 遠りくる 蒼と青 敷き詰めたりし 舞鶴に がんばろう日本が  
甦る

兵庫県神戸市 たかさま様 五十五歳

母立ちつくす 桟橋に 雪が舞います 待つてます 神に情けがあるならば  
一日息子を 帰してよ

山梨県甲府市 水木 亮様 六十八歳

引き揚げ館に 行く度に 新たな波 こぼれます 通してください 父や兄  
舞鶴の海に 祈ります

山梨県甲府市 水木 亮様 六十八歳

乳を求めて 亡くなつた 第お義子を 供えよう 興安丸よ ありがとう

山梨県甲府市 水木 亮様 六十八歳

心優しい 妹に 渡してくれと 亡き戦友(とも)の 手紙を抱いて 母の國 友よ妻へ  
舞鶴だ

山梨県甲府市 水木 亮様 六十八歳

父よ母よ 兄弟よ 俺は魂で 帰還した 娘はみえねど あの虹に 俺の波を見ておくれ

山梨県甲府市 水木 亮様 六十八歳

日本に運がれた 戦友の 魂を抱いて 帰還した 愛しい舞鶴の カモメさん  
せつない俺等を 抱いてくれ

山梨県甲府市 水木 亮様 六十八歳

シャボン玉 ふいて 地球の大ささを たしかめている 実堤の子は  
舞鶴の「岸壁の母」知つており

鳥取県鳥取市 中江 三貴様 六十三歳

たくさんのご応募ありがとうございました。

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

シベリアの地で 戦友と 祖国帰ると 桜う夜や 飢えと寒さに 今果て 遺品を胸に 舞鶴港

滋賀県野洲市 吾ぶら子様 五十九歳

極寒の月 戦友と 帰る日々祈り 命尽き 引き揚げ船の 波枕 あれが舞鶴 希望の灯

滋賀県野洲市 吾ぶら子様 五十九歳

凍土に埋もれ 戦友の 遺品を抱いて 舞鶴に あの夜眺めた シベリアの  
月は祖国と 変わりなし

滋賀県野洲市 吾ぶら子様 五十九歳

夢に見た 祖国への夢 見続けて 抑留を終え 帰る町 引き揚げ船は 舞鶴へ  
祖国へ帰る

福島県二本松市 あいらぶ様 五十三歳

遠くに映る 山の色 帰つてきたぞ！ 誰に言う？ シベリア送り 指五本  
それでも見える 山に波

神奈川県横浜市 陽垣 政希様 二十二歳

生きている限り 希望あり この地で咲かす 花がある 舞鶴いづる どこの土地  
そう思つた日 思い出に

香川県観音寺市 義我様 三十五歳

生き死にを乗り越え我は愛すべきふるさと日本降り立つて舞鶴の町故郷想い波にくれる

東京都町田市 おおつきらい様 三十四歳

身を切る凍風（かぜ）や ツンドラに 耐えてこの日を 夢に見た 祖国日本よ 舞鶴よ  
波にかすむ 鏡ヶ岬

京都府舞鶴市 トモ・岡田様 七十歳

たくさんのご応募ありがとうございました。

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

希望の舞鶴 純粹氣流 誰らう人情 心意氣 滴れ滴るまくら 引揚げの まろび夢見る 母の里

極寒のシベリア 固の橋とし重勞働 夢に見た父母 あゝふるさとー！ 死んだ友よゆるせ

埼玉県狭山市 高橋 倭文子様 七十七歳

嵐山河越え来る 故郷が見える 死んだ戦友（とも）よー！ 君の故郷（くに）の父母に  
「勇ましく戦った」と

埼玉県狭山市 高橋 倭文子様 七十

舞鶴湾に 鶴が舞う クレインブリッジ 岩壁の母 異国の丘と 故い縁がれし 引揚げの町

京都府舞鶴市 下屏 勝様

ああ古里の 湖の香よ 脱一一杯に ひろがつて いのちの炎 燃え立ちぬ 母國の土を  
踏み行きて 舞鶴港の風に立つ

愛媛県西条市 平井 辰大

シベリアに眠る 同胞の脚靈 遺骨を抱え夢に 見た祖國地 引揚者らによる 記念八重桜 桜  
の根元に立つ 戦友桜の碑

滋賀県東近江市 龍慈ちゃん様 六十

お国のみで したことで 北の最果て シベリアに ロシア人には 憎しみが 生きて舞鶴  
引揚げる

福井県大飯郡 渡辺 俊葉様 六十一

六十余年の とき過ぎて 父の戻りし 舞鶴の 壇を訪ねば かわりなき 破打ち寄せる 日本  
海 ああ舞鶴は 待つ倦

東京都世田谷区 上野 京様

たくさんのご応募ありがとうございました。

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

希望の舞鶴 純粹氣流 諸らう人情 心意氣 滴れ滴ぶまくら 引揚げの まろび夢見る 母の  
里

極寒のシベリア 国の橋とし重労働 夢に見た父母 あゝふるさとー！ 死んだ友よゆるせ

埼玉県狭山市 高橋 優文子様 七十七歳

峠山河越え来る 故郷が見える 死んだ战友（とも） よーー！ 君の故郷（くに）の父母に  
「勇ましく戦った」と

埼玉県狭山市 高橋 優文子様 七十

舞鶴湾に 鶴が寿う クレインブリッジ 岩壁の母 異国の丘と 故い縁がれし 引揚げの町

京都府舞鶴市 下屏 勝様

ああ古里の 潮の香よ 虹一杯に ひろがつて いのちの炎 燐え立ちぬ 母國の土を

踏み行きて 舞鶴港の風に立つ

愛媛県西条市 平井 辰夫

シベリアに眠る 同胞の御靈 遺骨を抱え夢に 見た祖國地 引揚者らによる 記念八重桜 桜  
の根元に立つ 戦友桜の碑

滋賀県東近江市 龍慈ちゃん様 六十

お国のみで したことで 北の最果て シベリアに ロシア人には 憎しみが 生きて舞鶴

引揚げる

福井県大飯郡 渡辺 俊景様 六十一

六十余年の とき過ぎて 父の戻りし 舞鶴の 港を訪ねば かわりなき 彼打ち寄せる 日本  
海 ああ舞鶴は 待つ港

東京都世田谷区 上野 京様

たくさんのご応募ありがとうございました。

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

兵のわれらは 戦の 因われの身 シベリアの 飢えと寒さに 耐えかねつ 思う舞鶴 港町

東京都世田谷区 上野京様 六十歳

六十余年の 時過ぎて 生きるも死ぬも 知れず待つ 悲しみ苦しみ 忘れては ならぬ平和を  
世でさえも

東京都世田谷区 上野京様 六十歳

きっと帰るの 約束を いまもはっきり 覚えるる あのシベリアの 彼方から 帰るあなたを

待つ港 ああ舞鶴は 待つ港

東京都世田谷区 上野京様 六十

雲仙丸が やつてきた 歓喜と悲嘆 素せてきた 希望と無念 あふれさせ 舞鶴は今 花ざかり  
つづじがおどる 甘い香で

神奈川県横浜市 田巻 衡様 四十八歳

いつ帰る 分からぬ息子 待ちながら 夢見る希望 生きる糧なり

大阪府守口市 嘴呼 銅様 四十七歳

岸壁に 囲まれ今日もあの時を 想えば長き 人の世を 教えてくれた 緋愛 今日も舞鶴  
待つ汽笛

北海道札幌市 文筆活動様 六十八歳

舞鶴に 興安丸が着く度に 聞いたラジヲの波声 そは我が戦争直後のかな

愛知県尾張旭市 僕 臨月様 六十五歳

舞鶴の水平線に現れし引き揚げ船は近づきつ 汽笛響かせ慈情の岸に達せり

茨城県那珂郡 五十嵐 裕活様 五十三歳

たくさんのご応募ありがとうございました。

# 「引揚げのまち 舞鶴」公募作品

いつも夢見た 我が故郷よ 我が家族 帰りましたよ 舞鶴に 再び生きる 希望を胸に

魅力溢れる 我が祖国

熊本県熊本市 おおえのたか様 六十六歳

北鮮の 名もなき土地に飢死し 一歳の身を葬られ リンゴ一つを供えられ 置き去りされし妹  
よ

父はロシアに連れ去られ 五歳の兄の手を引いて 二歳の私物に抱き 歩き続けた母の目の

目指すは三十八度線

千葉県市原市 足 古彦様 六十八

辿り着いたる釜山港 列々す帰国の人々々 興安丸の航海は 荒海越して七日間

波向遙かに日本を 拝む人々只言

千葉県市原市 足 古彦様 六十八

六十五年前の春 舞鶴港の桟橋に 帰國の一歩記したる 今亡きははに捧ぐべき

感謝の言葉只一つ 家族一同元氣です

千葉県市原市 足 古彦様 六十八

「岸壁の母」を歌う、カラオケの友 引き上げ体験、抑留体験つづる文藝の友  
そんな人々と交流し 母国日本の歴史を辿る こうした体験したした人は

今を強く生きている 辛い体験経た後に 人は素敵になつてゆく

舞鶴から人は強く生きて来た

山梨県笛吹市 植松 自由人様 六十四歳

